

輪之内町小学生交流事業 鹿児島研修を終えて

令和5年度派遣団長

大藪小学校長 宇佐見嘉之

体験を通して伸びる子供たち

輪之内町では、小学生は鹿児島研修、中学生はカナダ研修を実施しています。4年ぶりに、鹿児島県に実際に行き、現地の小学校と交流してきました。事前研修の時から、鹿児島県と歴史的なつながりである「宝暦治水」についてもっと知りたい、感謝を伝えたいという子がたくさんいました。それは、子供たちが学校の授業だけでなく、薩摩義士踊りや地域の太鼓などで、地域の歴史や文化を学んでいるからでしょう。

今回は行ったことがない場所へ行き、その土地の人と交流する貴重な体験です。その貴重な体験を通して子供たちは「ふるさと輪之内」を思い、改めて感じたことでしょう。

【研修1日目】

まず、平田公園に行きました。この公園は、宝暦治水の薩摩藩の平田靱負総奉行の生家があった場所でした。その公園には、岐阜県内の他地域の団体の名前がある記念のものがありません。岐阜県と鹿児島県とのつながりの深さを感じました。



【研修2日目】

研修のメインである鹿児島県の小学生と交流しました。今回は、郡山小学校の6年生の皆さんと、地域の劇団の皆さんで、鹿児島弁について体験しました。



劇団の方は「カッパ」が出てくるお話をしてくださり、鹿児島では、カッパのことは「がらっぱ」と言うそうです。また、桜島の火山灰を指す言葉は「へ」だそうです。

この交流会の前に、郡山小学校の教頭先生が、桜島について説明してくださり、火山灰をお土産にいただきました。

【研修3日目】

今も噴火を繰り返す桜島、その大自然に圧倒されました。大きな噴火で、桜島と半島がつながった話を聞き、びっくりしました。桜島独特の気候や風土で、桜島だいこん、桜島小みかんも有名です。

